

平成31年度の管理運営状況（東京アクアティクスセンター）

指定管理者：事業団・オーエンス・セントラルスポーツ・都水協グループ

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等
管理状況	適切な管理の履行	施設・設備の保守点検	<p>○令和2年3月10日、東京都から施設の引渡しを受け、直ちに施設・設備を稼働し、施設の適切な管理運営に向けた習熟作業に取り組んだ。</p> <p>○施設・設備の保守点検業務では、設備職員各日4名（夜間1名）による人員体制を確保し、早期習熟と適切な維持管理に努めた。</p> <p>○施設・設備の日常点検、定期点検については、点検スケジュール等を作成し、不具合等の対応に備えた。</p>
		水上競技施設の管理	<p>○プールの水質については、中央監視システムにより、随時、水温、遊離残留塩素濃度、薬品残量を管理している。また、水温、遊離残留塩素濃度については、実測による水質チェックもを行い、中央監視システムとのダブルチェックにより、適切な水質保持に努めた。</p> <p>○プール水浄化装置（ろ過機）の24時間運転によるプール水の浄化、前述の水質保持の徹底により、プール底が明瞭に見える透明度を保ち、衛生的なプール環境の維持に努めた。</p>
		施設の警備	<p>○東京2020大会の開催に向け、施設外周に仮囲いが設置されているため、入退場ゲートに警備員を配置し、東京2020大会組織委員会のオーバーレイ工事や大会準備のための視察等における入退館管理を適切に行った。</p> <p>○警備業務に当たっては、各日4名以上（日中3名以上、夜間1～2名）の体制を確保し、定位置警備、巡回警備及び監視カメラによる監視を組み合わせ、不審者等をチェックするなど、施設の防犯及び防災に万全を期した。</p>
		施設の提供	<p>○東京2020組織委員会のオーバーレイ工事が円滑に実施されるため、作業スケジュールの調整、工事内容の確認及び入退館情報等の共有を目的に、東京都、組織委員会、工事業者及び指定管理者による連絡会議を日々開催し、円滑かつ適切な館運営に努めた。</p> <p>○施設引き渡し直後に開催予定であったジュニアオリンピックカップ及び日本選手権の2大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、中止決定がされる直前まで、プールや諸室等の視察、放送機器・照明設備等の機械設備や放映関係設備の確認及び機材配置場所の調整など、主催者と綿密な連携体制を構築し、円滑な大会運営ができるよう準備に取り組んだ。</p>
	安全性の確保	施設・設備の安全性の確保	<p>○利用者の皆様に安全かつ安心して施設をご利用いただくため、施設引渡し後直ちに、館スタッフによる施設・設備の現状確認及び補修必要箇所の集約を実施し、東京都への報告とともに改善に取り組んだ。</p> <p>○当館は新規施設であるため、設備機器の点検に当たっては、特に初期不具合に留意しながら行った。不具合発覚の際には、東京都と緊密な連携を図るとともに、速やかに機器メーカーと事象解決に取り組んだ。</p>
		防災への配慮・緊急時対策	<p>○利用者の皆様に安全かつ安心して施設をご利用いただくため、令和2年3月25日、所管消防署立ち合いのもと自衛消防訓練を実施し、災害発生時の対応について知識等の習得を図った。また、館内各所にAEDを設置し、緊急時には館内スタッフが速やかに対応できるよう、東京消防庁の救命技能認定を取得している。</p> <p>○防火安全対策の向上と積極的な取組等について東京消防庁より認定される「優良防火対象物認定」に向け、上記消防訓練とともに消防用設備の点検等を実施した。（令和2年3月申請、同年4月認定）</p>
	適切な財産管理・財務運営	物品の管理	<p>○施設引渡しと同時に東京都から納品されたレーンロープ、スタート台及びタイム計測システムなどの競技物品や机・椅子などの什器等については、約2週間に渡り、製品組立や設置確認及び検査立ち合いなどを実施し、館運営をスタートするための初度調弁及び習熟作業に精力的に取り組んだ。また、電話・LAN配線工事などの執務環境整備についても、業務に支障を来さないよう、速やかに取り組んだ。</p> <p>○東京都からの貸与物品と指定管理者自らの調達物品については、シール貼付により区別し、適切な管理及び保管を行っている。</p>